Gemeente Delfzijl

平成29年度
周南市友好親善訪問団報告書
（オランダ・デルフザイル市）

周南市
SHUNAN CITY

ご　挨　拶

周南市では、姉妹都市交流事業の一環として、友好親善と相互理解を深めるとともに、国際感覚の豊かな人材を育成することを目的に、青少年等を姉妹都市へ派遣する事業を行っております。

平成２９年度は、オランダ・デルフザイル市へ中学生１０名、高校生５名、市職員１名の計１６名を派遣しました。デルフザイル市への訪問は、平成２年の姉妹都市提携以来、今回で１３回目となります。

団員達は、事前研修会にて、デルフザイル市について学んだり、語学研修を受講したりすることで、訪問に向けて準備を行い、期待と不安を胸に出発しました。

現地では、ホストファミリーをはじめ、多くの方々とのふれあいを通して、オランダの歴史や文化、生活様式などを学ぶとともに、日本の文化を伝えるなど、積極的に交流を深められました。

この報告書は、こうした団員達のかけがえのない貴重な体験や感動をありのままに綴ったものです。

団員として参加された皆さんには、デルフザイル市の新しい友人を大切にしていただくとともに、この度の経験を通して得られた自信や学びを、自らの成長の糧とされ、将来、国際化社会の中で活躍されることを期待しております。

終わりに、本事業の実施にあたり、ご協力とご支援を賜りました学校関係者や保護者の皆様、デルフザイル市役所、実際に日々の活動プログラムを計画された姉妹都市交流財団の方々、さらには、団員を温かいおもてなしで受け入れていただきましたホストファミリーの皆様に心から感謝申し上げます。

周南市長　　木　村　健一郎

Netherlands Groningen オランダ フローニンゲン

デルフザイル市について

市の概要

　デルフザイル市は、オランダのフローニンゲン州北部に位置する港湾都市である。岩塩と天然ガスの発見により化学工業を主体とする工業の街として発展した。また、自然の良港を有し、周南市と都市形態が似ている。住宅街はレンガ造りの瀟洒な家並みが並び、自然を多く残した美しい街である。（デルフザイルという名は、デルフ川にあった水門「ザイル」に由来している。）

●人口／約２５，０００人
●面積／約２２７㎢
●言語／オランダ語
●通貨／ユーロ（EURO）
●交通／アムステルダム市から車で約３時間

姉妹都市提携までのあゆみ

国際化が進展する中、旧新南陽市では姉妹都市の必要性を認識し、候補地を探していたところ、地元企業である株式会社東ソーによりオランダのデルフザイル市が紹介された。国際貿易に基本を置く港湾化学工業都市であるという類似した都市形態を背景に、互いの文化、生活様式の相違性の理解を深めることが大切であるとし、平成２年５月２２日に姉妹都市提携調印団をデルフザイル市に派遣して、調印を行った。周南市誕生後も引き続き交流を続けることとし、平成１８年７月３１日に再調印した。

概略日程

月　日	現地時間	日本時間	発着都市名	日　程
8月2日 （水）	 14:25 16:15 17:45	6:33 10:00 20:25 22:15 24:45	周南市 ヘルシンキ市 アムステルダム市	徳山駅発 福岡空港発 ヘルシンキ空港着 ヘルシンキ空港発 スキポール空港着 （ホテル泊）
8月3日 （木）	午前 午後 17:00		デルフザイル市	市内視察（国立博物館、運河クルーズ） アムステルダム市発 デルフザイル市着、歓迎会、ホストファミリー面会 （ホームステイ）
8月4日 （金）	午前 午後 夕方			ホストファミリープログラム スポーツアドベンチャー活動、エオリスの風車見学 交流会（バーベキュー、オランダの伝統的ゲーム） （ホームステイ）
8月5日 （土）	終日			ホストファミリープログラム （ホームステイ）
8月6日 （日）	終日			ホストファミリープログラム （ホームステイ）
8月7日 （月）	午前 午後 夕方			アウトドア体験 ブールタング要塞散策 ホストファミリープログラム （ホームステイ）
8月8日 （火）	午前 午後 夕方			アッピンゲダム市散策（運河クルーズ） ゴットリンズのミルク牧場視察 お別れ会 （ホームステイ）
8月9日 （水）	午前 午後		ユトレヒト市	デルフザイル市出発 ユトレヒト市着、市内視察（ディック・ブルーナー・ハウス、オルゴール博物館、ドム塔） （ホテル泊）
8月10日 （木）	午前 11:55 15:15 16:30		アムステルダム市 ヘルシンキ市	ユトレヒト市出発 スキポール空港発 ヘルシンキ空港着 ヘルシンキ空港発 （機内泊）
8月11日 （金）		8:00 11:05 12:21	周南市	福岡空港着 博多駅発 徳山駅着

平成29年度友好親善訪問団 団員名簿

11 ページ	周南市立太華中学校２年	内山　真貴	Maki　Uchiyama
13 ページ	周南市立富田中学校１年	大竹　真輝	Masaki　Otake
15 ページ	周南市立鹿野中学校２年	澤野　愛	Ai　Sawano
17 ページ	周南市立周陽中学校２年	渋田　潤	Jun　Shibuta
19 ページ	周南市立富田中学校３年	清水　瞳美	Hitomi　Shimizu
21 ページ	周南市立太華中学校２年	住出　彩夏	Ayaka　Sumide
23 ページ	周南市立富田中学校２年	田邊　樹里	Juri　Tanabe
25 ページ	周南市立熊毛中学校２年	谷田　楓	Fuuri　Tanida
27 ページ	周南市立周陽中学校２年	山崎　真花	Manaka　Yamasaki
29 ページ	ノートルダム清心中学校３年	吉野　綾花	Ayaka　Yoshino
31 ページ	山口県立防府高等学校１年	飯山　千滉	Chihiro　Iiyama
33 ページ	学校法人櫨蔭（ろいん）学園聖光高等学校１年	大田　千帆	Chiho　Ota
35 ページ	山口県桜ヶ丘高等学校３年	坂田　楓連	Karen　Sakata
37 ページ	山口県立華陵高等学校２年	鈴川　希里葉	Kiriha　Suzukawa
39 ページ	学校法人櫨蔭（ろいん）学園聖光高等学校２年	東影　成美	Narumi　Higashikage
41 ページ	周南市観光交流課	河津　浩之	Hiroyuki　Kawatsu

（中・高生 五十音順）

友好親善訪問団活動の様子

【オランダ　デルフザイル市　平成２９年８月２日～１１日　８泊１０日】

記：周南市友好親善訪問団　団長　河津　浩之

8月2日(水)

ＪＲ徳山駅に早朝６時に集合し、福岡空港からフィンエアー（フィンランド航空）でヘルシンキ空港を経由し、アムステルダムのスキポール空港へ向かいました。

出国して約１５時間かけて無事に到着した初めてのオランダの地は、生憎の雨模様でしたが、レストランでの夕食後、早々にホテルで長旅の疲れを取りました。

団員の多くがヨーロッパへのフライトが初めての体験であり、かなり疲れているようでしたが、体調不良までの様子はなく、安心しました。

8月3日(木)

小雨の中、アムステルダム市内を視察しました。

アムステルダム国立美術館では、迫力あるレンブラントやフェメールなどの絵画作品を身近に鑑賞することで、ヨーロッパの文化・芸術や歴史を感じることができました。

その後の運河クルーズでは快晴となり、１９か国語対応の音声ガイド付で、バスからの景色とは違った趣で、運河により栄えた素晴らしい街並みを見ることができました。

アムステルダム国立美術館

運河から見たアムステルダム市の街並み

運河クルーズを楽しむ団員たち

午後は、いよいよデルフザイル市に向けて出発です。１７時に市役所にバスで到着し、ヤン・メニンガ副市長をはじめ、姉妹都市交流財団関係者、ホストファミリー等の多くの方々によるお出迎えをしていただきました。

財団のヨハネス会長の進行で、副市長による歓迎の挨拶があり、御礼の挨拶としては訪問団長、団員代表として田邊樹里さんが行いました。その後、各団員とホストファミリーが紹介され、国王の肖像画の前でそれぞれ記念撮影を行い、この日から各家庭でお世話になることとなりました。

歓迎会で御礼の挨拶をする田邊さん

お土産品を受け取る団員たち

8月4日（金）

午前中は各ホストファミリーと過ごしました。

隣接するアッピンゲダム市でお祭り（昔の民族衣装を着用した人たちによる演奏や出店があり、記念館の入場が当日は無料）が開催されており、多くの団員がホストファミリーと訪れていました。

インタビューを受ける吉野さん

午後は、デルフザイル市内の公園で、団員とホストファミリーが様々なスポーツアドベンチャー活動（アーチェリー、ブロック建て、橋渡し、キャタピラー競争など）を行い、交流を深めました。地元のラジオ局が取材に来られ、団員を代表して吉野綾花さんが英語の受け答えにより生出演しました。

様々なスポーツアドベンチャー活動を通して交流する団員たち

夕食は、風車「エオリス」横の広場で、みんなでバーベキューをいただき、食後には隣接する公園で伝統的なオランダのゲームを行い、さらなる交流を深めました。

食事の準備ができるまでは、風車のバルコニーに上がったり、団員の男子はサッカー、女子は鬼ごっこ等を行っていましたが、ホストの子供達とは既に打ち解け、みんな笑顔で楽しく過ごしていました。ゲームの最中は、降雨となりましたが、終わる頃には止み、風車を挟んで虹が架かり、とても印象に残る光景でした。

バーベキューの様子

エオリスの風車の上で

伝統的なゲームでの交流

エオリスの風車と虹

8月5日(土)、6日(日)

土日の２日間は、ホストファミリープログラムとして、終日、それぞれのホストファミリーと過ごしました。

私は、土曜日は、姉妹都市財団会長のスワルト邸を訪ねました。スワルト氏は本市を１２回も訪れておられることもあり、錦鯉や鶏を飼われ、素晴らしく手入れされた日本テイストに満ちた庭園を造られていました。

日曜日には、姉妹都市財団事務局のステグマイヤー氏に、デルフザイル市から北西に位置するロッパースム市やフローニンゲン市の若者が賑わう中心市街地を案内していただきました。街中では、ホストファミリーと買い物に来ていた団員と出会うこともあり、みんな有意義に休日を過ごしている様子を見て安心しました。

フローニンゲン市の街並み

ホストファミリーと買い物に来ていた団員たち

8月7日(月)

８時４５分に市役所に団員・ホストファミリーが集合してバスに乗り込みました。クライミング・パーク・フロローでは、滑車を含めた器具を腰回りに装備し、木々の間に張られたワイヤーロープを滑り降りるジップラインの体験を行いました。

体験内容はレベル５までありましたが、時間の都合でレベル１～２程度までしかできず、団員男子２人は物足りなさを訴えていた一方、女子については、最初は怖いと言いつつも、慎重に安全確保をしながら、楽しんでいました。

昼食はバス移動し、湖の近くにあるレストランで、バイキング形式の食事をいただきました。

ジップライン体験！怖かったけど楽しかった

午後はドイツ・ベルギーとの国境付近のオランダ国ファールス州にあるブールタング要塞を訪れ、各自が園内を散策し、買い物等を行いました。この要塞は、上空から見ると綺麗な星形になっており、北海道の五稜郭が、ここを参考に建設されたことから日本でも知られています。

この日の夕食はそれぞれホストファミリーと過ごしました。

ブールタング要塞を散策

カラフルなお菓子がいっぱい！

上空から見たブールタング要塞

8月8日（火）

午前は、ホストファミリーが団員と共にアッピンゲダム市に集合し、運河から古い街並みを巡るクルーズを楽しみ、その後、ニコル教会を訪れるなど市内を徒歩で散策しました。

昼食はデルフザイル市へ戻り、ホストファミリーと様々な形のホットプレート器で焼いたパンケーキをいただきました。団員のみんなは、食べ慣れたものだったので、楽しく、たくさん食べていました。

運河から見た古い街並み

午後は各ホストファミリーの車で牧場に集合し、乳牛の自動搾乳器や人工授精の作業を見学したり、絞りたての冷たい美味しいミルクをいただきました。団員には糞や干し草の強い匂いに苦しむ子が多く、タオルで覆ったり、ティッシュで鼻を塞ぐ子もいました。

いろいろなパンケーキを食べました

匂いはキツかったけど、絞りたてのミルクはやっぱり美味しかったです

夜は、市内のレストランでお別れ会を開催していただき、メニンガ副市長夫妻も参加していただき、大変盛り上がりました。店内に掲げてあるテレビモニターには、デルフザイル市へ来てからの団員の写真が映し出され、店内には両国の国旗も掲げられ、素晴らしい演出がされていました。食事が一通り終わったところで、日本から持参した折り紙を使って、団員がホストファミリーに鶴や手毬などの折り方を教えながら一緒に作るなど和やかな時間が流れました。

すっかり家族の一員です

その後、飯山千滉さんの曲紹介により、団員からお礼のパフォーマンスが始まりました。２名がフロントでよく踊り、他の団員は代わる代わるマイクを手にして歌うなど、団員全員が楽しく歌い、非常にいい表情をしており、また、ホストファミリーが温かく見守っている様子を見て、団員達の国際交流が達成できていると感じました。

次に、副市長の挨拶、団長の挨拶を行い、最後に坂田楓連さんが、立派にお礼の挨拶を行い、Good Job！でした。

ホストファミリーと折り紙に挑戦

飯山さんの曲紹介でパフォーマンススタート!!ハチマキで猫耳を作ったり、交代で歌ったりして大変盛り上がりました！

パフォーマンスの後は、メッセージを書いたハチマキをプレゼント！最後は坂田さんが挨拶しました

8月9日（水）

楽しかった時間もあっという間に過ぎ、ついにお別れの朝となりました。市役所には、リゼンボール副市長をはじめ、たくさんのホストファミリーの方々が団員との別れを惜しみ、お見送りに来られていました。団員はそれぞれホストファミリーと握手やハグをして、涙のお別れでした。

別れを惜しむ団員たち。たくさんの方が見送ってくれました

デルフザイル市役所からバスに乗り、ユトレヒト市へ向かいました。

昼食を済ませた後、午後からは、「ディック・ブルーナー・ハウス」と「オルゴール博物館」を観覧しました。

オルゴール博物館では、団員達は朝の別れや歩き疲れにより、疲労が溜まっているようでした。

次に、高さ１１２ｍの「ドム塔」の階段４６５段が待っていました。専用ガイドに各階を案内してもらいながら、疲れていたと思われる団員も最上階まで登り切りました。この日は快晴で、流石に最上部からの眺めは最高で、ユトレヒト市内をまさに３６０度一望することができました。

その後、レストランで夕食をとり、市内に唯一あるミッフィーの信号機を見るために徒歩で向かいました。

男子もミッフィーを楽しんでいました

レストランで夕食

ドム塔の前で集合写真

8月10日(木)

１１時５５分にアムステルダム市のスキポール空港を出発し、ヘルシンキ空港を経由して、福岡空港へ向かいました。団員は、疲れた様子で寝たり、映画を見たりして過ごし、この日は機内泊となりました。

8月11日(金)

中国の上空でご来光を眺め、機内食の朝食をいただきました。長時間のフライトを経て、８時に、無事、福岡空港に到着しましたが、日本の異常な暑さを感じ、オランダは良い気候だったなあとつくづく感じたのは、私だけではなかったでしょう。

博多駅から新幹線に乗車し、新山口駅で寝ていた団員数名を起こし、みんなに「いい体験・思い出ができたな、親御さんに感謝するように、また現実に戻って勉強頑張ってください。」とエールを送りました。

徳山駅では団員のご家族から、「お世話になりました。」との言葉をいただき、団員１５名全員がご家族の元へ無事に帰ることができて本当に安心しました。

行く前は不安や心配が多数を占めていましたが、団員共々、大変素晴らしい貴重な体験ができて良かったと思います。

中国の上空で見たご来光

スキポール空港で

内山　真貴
Maki　Uchiyama

（ホストファミリー　Bakker 家）

私はオランダに行って、たくさんの初めてを体験することができました。初めての海外、初めて会う人、初めての街並み、初めての食べ物などどれも、「え！？」といったものばかりでした。私にとって素晴らしい体験をすることができました。

街を歩いていると、自転車に乗った人がたくさんいました。そして、たくさんの自転車が置いてありました。歩行者と自転車がぶつかったとき、歩行者の方が悪くなってしまうことに、驚きました。日本ではありえないことでした。それほど、自転車に乗る人が多いのかなぁと思いました。

会計をするとき、ゆっくりでした。お金を出すとき、焦らずにすみました。後ろのお客さんもイライラしていなかったので、心の広い人が多いと思いました。

私は周南市友好親善訪問団に参加して、日本とオランダの違いがわかり、そして、自分が成長することが出来たと思います。

アムステルダム市内にある駐輪場を、車窓から撮ったものです。日本では見たことがないぐらいの自転車の数にびっくりしました。ホストファミリーに「自転車を何台持っていますか？」と聞いたところ、「私たちは8台持っています。」と言いました。私は、とても驚きました。それが、顔に出ていたようで、「そんなに驚く！？」と言われました。

日本のみんなと話すとき以外はずっと英語で話していました。私は、日本を出発する前は、伝えたいことが伝わらなかったらどうしようと思っていました。最初はあまり聞き取ることができなかったですが、日がたつにつれてだんだんと聞き取ることができたので嬉しかったです。ホス

トファミリーが何を言っているかわからないときがありました。そのときは、ホストファミリーが親切に携帯の和訳アプリを使ってくださいました。自分が、伝えたいことが伝わらないときは、必死にジェスチャーを使って伝えました。単語でしか言えないときがあったけれど、会話が続いてよかったです。しかし、あまり質問したり、会話をしたりすることが多く出来ませんでした。質問したら、日本と全く違った答えが返ってきて驚くことが多かったです。また、会えたときは、話せなかったことをたくさん話したいです。そして、日本の魅力を語り、ホームステイしてもらいたいです。

この交流で、たくさんの友達が出来ました。学校でも、それ以外でも、もっと友達ができる気がしました。たくさんの重要なことに気が付けたと思います。

ホストファミリーと過ごせた日があまり長くなかったけれど、毎日楽しく過ごせてよかったです。私の忘れることのない思い出になりました。

このような機会で会えることが出来て、本当に嬉しかったです。また、どこかで会いたいです。

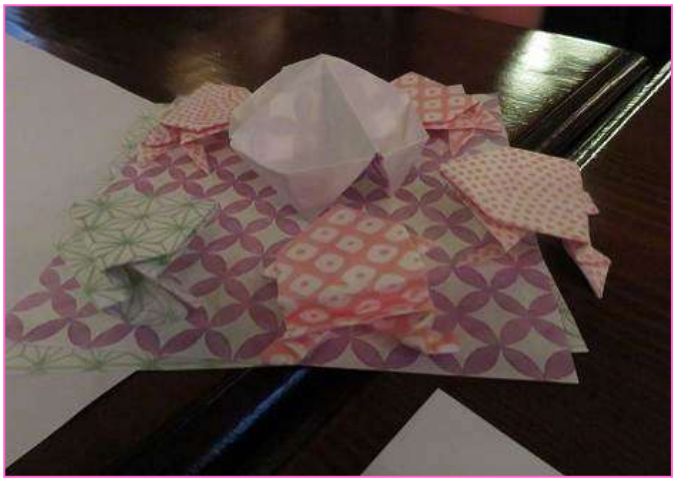
そして、今回の訪問で関わって下さった皆様のおかげで、無事に行って帰ることができました。感謝します。

ありがとうございました。

バーベキューをしたところにあったエオリスの風車を撮ったものです。風車の中に入ると、風車の模型がありました。上に行ってみると、綺麗な景色が見え、思わず写真を撮ってしまいました。この後、バーベキューを皆と一緒にしました。皆で食べたので、一段と料理が美味しく感じられました。食事が終わった後に、みんなで写真を撮りました。最初は、自分のホストファミリーと撮りました。途中からは、一緒にピースの手をしてくれました。皆とそれぞれのホストファミリーで写真も撮りました。たくさん撮ったので疲れたけれど、楽しかったです。

アザラシを見た後に近くの海を見に行った時の写真です。アザラシは、母親がいない、子供でした。その子供たちは、施設で育てられていました。元気に育って、早く海に帰られるようになってほしいです。この海はドイツとオランダに挟まれているそうです。向こうに見える所がドイツだと思うと、とても近いなぁと感じました。

カヌーに乗ったときの写真です。このとき、私は初めてカヌーに乗りました。落ちるかと思ってドキドキしました。落ちなくてよかったけれど、何回もぶつかりました。そして、２回も木の中に入ってしまいました。そのときは、たくさん笑いました。



お別れ会の時に折った蛙の折り紙の写真です。ホストファミリーみんなで折る予定でしたが、お父さんが、折るのが難しくてできないということで、お父さん以外の５人で折りました。すぐに折ることができました。しかし、いざ跳ねさせるぞというときに全く跳ねませんでした。楽しかったです。

ホストファミリーが持っているボートに、ホストファミリーとその友達と一緒に乗っているときの写真です。オランダに行って沢山ボートに乗りました。自分で運転できて、初めてのボート運転はとても楽しかったです。岸に停めたりしてポテト屋さんや、スーパー、車工場などいろんな所に行けて楽しかったです。また、オランダの川は橋が多く、運転が少し難しかったです。

大竹　真輝
Masaki　Otake

（ホストファミリー　Froma 家）

日本を出発する前、僕は以前から行ってみたいと思っていたヨーロッパに行けることの嬉しさでわくわくする気持ちと、自分の英語でオランダの人達と話せるか心配な気持ちがありました。

僕は、デルフザイル市に住むフロマ家にお世話になりホームステイをしました。娘さんは独り立ちしていてお母さんと息子の二人家族でした。とても優しい家族でした。

訪問プログラム以外にもホストファミリーとボートに乗ったり、サッカーをしたり、フローニンゲンに行ったり様々な体験をしました。食事は全て手作りでとても美味しかったです。自分の英語で一生懸命伝えようと頑張っているのを見て、ホストファミリーは、答えやすい質問を言ってくれ、僕の気持ちを理解しようとサポートしてくれました。なので、訪問前にあっ

ホストファミリーの家の近くの海で撮った写真です。果てしなく広がる海はとてもきれいでした。岩には、奇妙な生物がいてびっくりしました。日本の海の海岸に見られるフナ虫は見たところいませんでした。オランダのきれいな風景に圧倒されました。

た言葉の不安がホストファミリーのおかげでなくなり、毎日楽しく過ごすことが出来ました。

僕は、訪問前までは、オランダのこと、デルフザイルのことを深く知りませんでした。ですが、実際に訪問して添乗員さんや市役所の方、なによりホストファミリーの方に風土や文化、生活など、いろんなことを教わり、見たり、聞いたり、肌で感じたりすることでたくさんのことをさらに深く理解することができ、とても学ぶことが出来ました。

日本に帰る日が近づくとオランダがとても恋しくなりました。食べ物、風景、そしてとても優しかったオランダの人々。全てが僕の大切な思い出、宝物です。

たくさんのことを学ぶことが出来たオランダに僕は、もう一度自分の力で行こうと思いました。この訪問で一番自信になったことは、とてもコミュニケーションが取ることができ、ホストファミリー以外の人達ともたくさん関わり友達がたくさん出来たことです。このコミュニケーション能力を生かして日本とオランダの架け橋になれたらいいと思います。そのためたくさん勉強して自分の英語を伸ばし前よりもっといろんな人と関わり会話をしたいと思います。

来年はオランダの方々が周南市に来ます。積極的に受け入れてオランダで受けたおもてなしを今度はしてあげたいと思います。そして、相手にとって周南市に来て良かったと思えるような思い出を一緒に作ってあげたいです。

最後にこのデルフザイル市友好親善訪問団の関係の皆さん、この事業に関わった皆さん、温かく見送ってくれたお父さん、お母さん、たくさんの思い出を作ってくれたホストファミリー、たくさんの月日を共にした訪問団員の皆さん、本当にありがとうございました。

フローニンゲンで食べたときの写真です。日本のパンケーキよりも薄く、砂糖や専用ソース、様々なものをかけて巻いて食べる食べ物で、とても美味しかったです。お店以外に家でも作ってもらいました。オランダに行ってポテトの次に沢山食べたと思います。

この写真は、BBQのときに撮った写真です。ホストファミリー以外の人達ともすぐに仲良くなりました。サッカーをしたり、鬼ごっこなどをしたりしました。オランダでは、コミュニケーションが取れ沢山の友達ができました。

アドベンチャー活動で初めてアーチェリーを体験しました。何度も何度もやっていくうちにコツを掴むことができ、的の真ん中に当てることができました。当たった時の嬉しさが今も残っています。とても楽しかったのでまたやってみたいです。

動物園での記念写真

澤野　愛
Ai　Sawano

（ホストファミリー　Voskamp 家）

私はオランダ・デルフザイル市に行き、たくさんの思い出を作ることができました。

まずはバーベキューです。ホストファミリーと会ってまだ少ししかたっていない中での初イベントで少し緊張しましたが、お話ししながら仲良く食べることが出来ました。日本のゲームである鬼ごっこのルールを教えて一緒にやったり、みんなで写真をたくさん撮ったりしました。その後は、オランダの伝統的なゲームをしました。特に目隠ししながらパンを食べるのが印象に残っています。初めて知ったものばかりでしたが、どれも面白かったです。

ホストファミリーとの休日も良い思い出になっています。

土曜日はフローニンゲンにお買い物に行きました。そこで、写真にあるようなオルゴールを見ました。お母さんに聞いたのですが、この形と大きさはオランダならではらしいです。音も大きくて、これはその場にいないと体験

バーベキュー時の写真。たくさんの交流ができた。

大きな音で、伝統あるオルゴール。

できません。この後はマルティーニ・タワーにのぼりました。タワーはとても高く、のぼる途中もいくつか部屋があり、その中には鐘がたくさんありました。マルティーニ・タワーの鐘の音は重みがありながらも聞きやすかったです。馬車にも乗ることが出来ました。道路を走ったので、ここではそんなこともありなのだと驚きました。日本との違いをたくさん感じた１日でした。

日曜日は動物園に行きました。動物、魚、蝶のエリアがありました。蝶のエリアは新しくできたものらしいです。私のお気に入りは蝶のエリアで、サビーネと一緒に見てまわりました。他にも、人口の滝があったり、名前は分からないけど可愛い動物がたくさんいたりしました。サビーネ、フランクと３人でまわったりもしました。少し迷いかけましたが…。

そして、お夕飯。お寿司を食べに行きました。びっくりしましたが、嬉しかったです。そのときサビーネに箸の使い方を教えました。やって見せたり、１本ずつ持ち方を教えたり、いろんなやり方でおしえました。だいぶ使えるようになっていたので嬉しかったです。

「何歳から箸を使うの？」と聞かれたので

「５、６歳くらいかな」と答えると驚かれました。笑いながらたくさん話せたのでよかったです。

マルティーニ・タワー。
この鐘の音はとてもきれい！

今回オランダに行って、思い出が出来ると同時に分かったことがたくさんあります。まず、ｙｅｓとｎｏをはっきりさせることです。話をしてそれをとても感じました。意思をはっきり伝えるとは、こういうことかと思いました。

次に文化です。靴のまま家に入ったり、ドアノブが飾りだったり…。大きいことから小さいことまで違いだらけです。しかし、そんなたくさんの違いは驚くことばかりでしたが、面白いものだと感じました。

自分の目で見て感じることのできるこの訪問に参加して本当に良かったです。参加させてくれた両親と、関係者の方々に感謝しながら、この経験をこれからにつなげていきたいです。そして、今回繋がることのできた人たちとの絆も大切にしていきます。

おすしのメニュー。
外国にもあり驚いた。

私たちが乗った馬車。道路を走ります！

渋田　潤
Jun　Shibuta

（ホストファミリー　Koetze 家）

　僕の家では、５年前にホストファミリーとして、オランダ人を引き受けました。その時に、オランダについて沢山教えてもらい、自分も何時かはオランダに行ってみたい、と思うようになりました。そして、学校で親善訪問団の募集があった時に、絶対に行きたいと思い、迷わず応募しました。訪問団員になるための抽選の時は、とてもドキドキでした。行けると決まった時は、とてもうれしかったですが、英語が苦手なこともあり、同時に不安な気持ちになりました。しかし、片言の英語でホストファミリーとメールのやりとりをしていくに連れて不安は徐々にほぐれていき、出発当日、期待で胸をふくらまして日本を出国できました。

　滞在２日目、いよいよホストファミリーとの対面です。最初の印象は、とにかく大きい、僕と同年代の人でも僕よりはるかに大きかったです。初対面でも、あまり緊張しませんでしたが、いざ話してみると、伝わっているかなと心配でしたが、僕達はすぐに仲良くなることが出来ました。そのきっかけは、ゲームです。ホストファミリーの子供達とサッカーゲームなどを一緒にすることで、言葉の壁を超えることが出来ました。

　滞在中、特に印象に残っていることは、３つあります。

　１つ目は、サイクリングで、色々な所に出掛けたことです。オランダは自転車大国ということもあり、ホストファミリーも、沢山の自転車を持っていました。サイクリングでショッピングや風車を見に行きま

サイクリングで行った港の写真です。オランダは、自転車道が完備されていて、坂が少ないので、とても走り易いです。

とうもろこし畑の迷路に挑戦しました。映画のセットの様で、日本では体験できないようなことが出来て楽しかったです。

したが、オランダは低い土地で坂が少なく、とても走りやすく、自転車道が完備されていることを実感出来ました。

２つ目は、とうもろこし畑の迷路に挑戦したことです。その迷路は、とうもろこし畑を切って田んぼみたいな泥地面で、地図を元に協力しながら、ルートを探し、４０分位で迷路を抜けれて、見事クリアした達成感を得ることができ、うれしかったです。

３つ目は、僕の家がホストファミリーとして引き受けたデニスに久しぶりに再会出来たことです。大学生になったデニスは、得意の日本語で話かけてくれて、懐かしさとうれしい気持ちで一杯になりました。

今回の訪問で、オランダについて少し理解することが出来ました。また、多少英語が出来なくても伝えようという気持ちがあれば、伝わるということが分かりましたが、やはり今後は英語をもっと勉強しなければという気持ちにもなりました。別れの日に、またね、と言ってくれた時は、とてもうれしかったですし、次は来年僕がホストファミリーになって世話をしてあげよう、次はプライベートでオランダに行って、もっとオランダを知りたいと思いました。今回、友好親善訪問団員になり、色々と体験させて頂き、日本人と違う同世代の人達と話をしたことは、大変勉強になりました。自分にとって、とても貴重な経験でした。このような体験を今後の生活に活かしていき、どういう大人になりたいかを考える一助にしたいと思います。

ホストファミリー、そのおじいちゃん・おばあちゃんとレストランに行った時の写真です。オランダ滞在３日目で、ナイフとフォークの扱いが上手くなりました。

ホストファミリーの犬と散歩した時の写真です。とてもなついていて、散歩時はリードなしで大丈夫でした。オランダは、広場が多く、そこで犬と遊んでいる方が多くいました。

オランダの民族衣装で家族写真！

清水　瞳美
Hitomi　Shimizu

（ホストファミリー　Ernst 家）

初めての海外。英語の得意でない私はホストファミリーとコミュニケーションがとれるか不安でした。言語も文化も違う人たちと仲良くなれるのか、と。

しかしそれは杞憂でした。ホストファミリーのエルンスト家のみなさんは私をとても温かく迎えてくれたのです。時々、うまく言いたいことが伝わらず困ってしまうこともありましたが、長女のルイスやホストマザーが単語で聞き返してくれるなど英語の下手な私にも分かるように話してくれました。

初日は日本からのお土産を渡し、日本や周南市について紹介しました。日本のお菓子は好評で、中でもハッピーターンが人気でした。折り紙でも遊んで緊張が解けました。

土日はホストファミリーとずっと一緒に過ごしました。土曜日はキャンプに連れて行ってもらいました。キャンプ場にあるコテージでゆっくり過ごし、ホストファミリーの末っ子のディアスと犬の散歩に行ったり、トランポリンをしたりしました。

日曜日はフォーレンダムという観光地に連れて行ってもらいました。きれいなビーチが印象に残っています。チーズ博物館にも行ってチーズのできる過程や道具などを見ることができました。昼食で食べたフィッシュアンドチップスはとてもおいしかったです。しかし、量がとても多く食べるのが大変でした。そして、一番印象に残っているのはオランダの民族衣装を着たことです。なかなかできない貴重な経験でした。写真を撮るときにホストマザーが「これは家族写真だよ。」と言ってくれたことは本当にうれしかったです。

私はこの友好親善訪問団に参加して日本とオランダの違いをたくさん発見することができました。その違いに戸惑いながらも、案外慣れるのが早かったのは、自分でも驚きです。私は海外に対する不安や抵抗が小さくなっていくのを感じました。

そしてホームステイでは、コミュニケーションをとる上で大切なことをたくさん学ぶことができました。それは笑顔とお互いの気持ちです。笑顔で接すると相手も笑顔で接してくれます。それに、言葉や文化は違ってもお互いにコミュニケーションを取ろうという気持ちがあれば思いは伝わります。ホストファミリーのティムとディアスはまだ幼くオランダ語しか話せませんでした。しかし、遊びのルールを教えてもらって一緒に遊ぶことができました。これはお互いに一生懸命伝えようとする、聞こうとする姿勢があったからこそできたのだと思います。

言語の違う人たちと仲良くなれたことは私の中で大きな自信になりました。そして、これからももっといろんな人とコミュニケーションを取りたいと思うようになりました。もっと新しい考え方やモノの見方を身につけ、すばらしい経験をさせていただいた周南市に貢献できるようになりたいです。

キャンプ場でディアスと犬の散歩へ

チーズ博物館には、たくさんのチーズがずらり！

フォーレンダムのビーチでティムとディアスと

ホストファミリーとのお別れ

（本人 左端）

バーベキューでの集合写真！

住出　彩夏
Ayaka　Sumide

（ホストファミリー　Bakker 家）

私は周南市友好親善訪問団に参加して、たくさんの経験を積み、一生忘れないような思い出をつくることができました。

最初にホストファミリーと会ったときは緊張し、英語も上手くないので何を話したらいいかわからずに、同じ家でお世話になった日本人の友達とばかり話していました。

しかし、ホストファミリーと日々を過ごす内に心が開けていきました。

私が相手の言おうとしていることを理解しようと努力すると、向こうも私の拙い英語を理解しようとしているのが伝わってきました。それがとても嬉しかったです。

朝ごはんの時間、色々なところに連れて行ってくれた時間、夜の映画の時間、日常のひとつひとつの出来事が楽しく、明日がくるのを楽しみに毎晩眠りについていました。

一番印象に残っているのは人生で初めて乗ったカヌーです。

オランダは草原と川が多く、自然がいっぱいのとてものどかなところでした。そんなオランダの特徴を感じなが

らカヌーを漕ぎました。凄く遠くまで漕いで手が疲れました。操縦が難しく、岸にカヌーをつけようとすると変なところにいき、私たちは木につっこんでしまいました。一番前にいた友達が一番被害を受けていました。

カヌーの前に見たアザラシもとても印象に残っています。

病気になったり、迷子になったりしてしまったアザラシを保護している施設に連れて行ってもらいました。アザラシを見るのも初めてで、すごくドキドキしました。水から出てくるタイミングがなかなか掴めないので写真を撮るのが難しかったです。

お別れ会のときには、皆で折り紙を折りました。

はじめての折り紙にホストファミリーは戸惑っていました。日本人にも、折り方を教えるのは大変なのに、言葉がなかなか伝わらないホストファミリーに伝えるのは難しかったです。でも、折る手つきをゆっくり見せるとちゃんと伝わり、きれいなカエルができてうれしかったです。作ったあとは、皆で飛ばして遊びました。日本の文化を知ってもらえてよかったです。

このホームステイを通じてオランダという国は、自分たちの国の文化や特徴を大切にしている国で、人々はみなユーモアがあり心優しい人ばかりだということがわかりました。これから、オランダの良さをたくさんの人に伝えていきたいと思いました。訪問団の仲間やホストファミリーの方々との思い出をアルバムやお土産と共に大事にしていきたいです。

カヌーに乗った時の写真。景色がきれいだった。

アザラシのベストショット!!

お別れ会のときにホストファミリーと折ったカエル

ユトレヒトにあるミッフィーの信号

皆で朝ごはんを食べた時の写真です。私が卵焼きを作って記念に撮りました。私のホストファミリーは何も入ってない卵焼きよりもゴマ油が入っている卵焼きの方が好きそうでした。

田邊　樹里
Juri　Tanabe

（ホストファミリー　Hommes 家）

私は、周南市友好親善訪問団に参加して良かったと思ったことはたくさんあります。

１つ目はコミュニケーションです。

私は、同年代の人達が少し苦手でした。皆がキラキラ輝いていてちょっと気後れでした。でもここに集まった人達は、キラキラしていたけど、あまり派手じゃなくて皆フレンドリーでした。それから、あちらの方たちも優しくてとっても自分らしくいれました。だからいっぱい話せて、前よりかは同年代の人達とも話せることができるようになりました。

２つ目は、友達ができたことです。

私は以前から国際交流に参加していました。なので外国人には慣れていたんですが、連絡先などを聴いていなかったので連絡ができず、そのまま時間だけが過

サイクリングをした時の写真です。山道を70分程走って町に出て20分程で家に着きました。山道を通っているとき、いろんな生き物がいて、この山はいいなと思いました。途中にアルパカと山羊とアヒルがいる場所を見つけました。そこら辺に生えている草をあげました。

ぎていきました。

だけど今回は今までとは違っていて、泊まる前から連絡を取り合っていて、相手の嫌いなものやタイプを先に聞けて会話が弾んだりしました。ホストファミリーの友達を紹介してもらったりして、ホストファミリーだけではなく周りの人達も仲良くなれました。今でもその何人かとは連絡を取り合っています。

３つ目は、異文化の違いに興味を持てたことです。

例えばご飯。日本人はお昼ご飯を食べなければいけないと思いがちですが、オランダ人は、あればいいやというような感じでした。また、宗教です。私の泊まった家では、キリスト教をどちらかというと信仰していて、教会に行きました。この時、私はキリスト教のことは全く興味がありませんでした。なので曖昧な返事をしていました。日本に戻って来て、キリスト教の事について始めて興味を持てました。なのでお互いの文化を尊重し合うことができました。これでまた友好の印が深まったと思います。

この周南市友好親善訪問団に参加して、私はとってもいい経験をしました。外国人には遠慮がちにならないことや何にでもはっきり言うことです。私は、この他にもいろんな経験をしました。それは、今は役に立たないかもしれないけどいつか役に立つと思います。それまでこの経験を忘れません。オランダと日本は何もかもが違っていてまるで夢の世界に入るのかと思いました。ご飯もお昼ご飯はあればいいかのような感覚で３食きっちりと食べなきゃいけないと思っている日本とは違いましたし、お風呂もバスタブがなくってびっくりしました。

この思い出は私の中で一生忘れられない経験になりました。

全部のホストファミリーと一緒にバーベキューをした場所の風車です。この風車の名前は「エオリスの風車」です。新南陽にある風車のもとになったものです。また風車は中に入れて4階までありました。2階に一冊のノートがあって来た人がサインなどをしていました。私もしてみました。

干潮になった海に行った帰りの写真です。行きは足首までしか汚れなかったのに帰りに沼にはまってしまって汚れました。片道2時間もかかったのにアザラシが見れなくて残念でした。新品の靴を買ってもらったのにとっても汚れて悲しかったです。

ブールダンク要塞に行った時に撮った写真です。ホストファザーが鐘突き小屋でちょっとふざけた写真です。この要塞は上から見ると星の形をしていてよく考えたなって思いました。ここのアイスクリームは美味しかったです。

シーライオンを見るために、片道２時間の道のりを歩いて海に行きました。普通の道ではなく、立ち止まると沈んでしまうようなところを２時間歩き続けました。くつは、最初の色が何色かわからなくなるぐらい真っ黒になってしまいました。シーライオンを見ることはできなかったけど、オランダならではの体験ができました。

（本人 前列左から２番目）

谷田　楓
Fuuri　Tanida

（ホストファミリー　van Dijk 家）

私はこのホームステイをして、とてもいい思い出になったと思います。

最初は、たくさんの不安がありました。英語を上手に話すことができないのでコミュニケーションをとることを頑張ろうと思いました。私はオランダに行くのも初めてで、オランダ語なんて全く話せませんでした。

１日目、オランダついて最初に「寒い」と思いました。日本との時差が７時間もあって、最初は少し時差ボケもありました。日本にいる家族と連絡をとるときも時差があり、変な感じがしました。

２日目、現地での見学があり、ホストファミリーとの面会がありました。メールでやりとりをしていたけど、会った時はとても緊張しました。でもホストファミリーはみんな優しそうな人だったので安心しました。

３日目は、スポーツアドベンチャーでホストファミリーと一緒にいろんな事を体験しました。この中でも１番心に残っているのは、

私が１番最初にホストファミリーと行った場所が、家の近くにある風車です。このときはまだ会ったばかりで少し緊張していました。犬のポニーの散歩の途中に行きました。

板をつないで地面に落ちないようにする遊びです。みんなが落ちないように自然と手をつないだり、ジェスチャーなどを使ってコミュニケーションがとれていました。その時のバーベキューでは他のホストファミリーも仲良くなれて楽しく過ごせました。

約１週間という短い期間だったけど、本当の家族のように接してくれたホストファミリーとの別れはとても悲しかったです。いつも笑顔のホストマザーが涙を流していて、バスに乗る直前には、ハグをしました。私はこれからオランダで学んだ事を生かし、オランダのことをたくさんの人に伝えられるようにしたいです。

私のホストファミリーはオランダでしかできないとても貴重な体験をさせてくれました。

それは、沼のようなドロドロした所を２時間半歩き続けるワドローペンというものです。立ち止まるとどんどん足が沈んでしまうので、長い距離をずっと歩きました。最後には靴の色が何色かわからないぐらい泥だらけになり、真っ黒になってしまいました。でも日本ではできないとてもいい経験となりました。

それからアウトドア体験や、運河のボートツアーなどのいろんなプログラムがありました。６日間のホームステイはあっという間に過ぎてしまいました。

そして最後の日、お別れ会がありました。

はずかしくて、踊れないと思っていたけど、最後と思うと悲しくてがんばろうと思うようになりました。結果は、練習のときとくらべると、すごくよくなりました。見ていたホストファミリーもノリが良くてすごく盛り上がりました。約 1 週間でホストファミリーとこんなにも仲良くなれるとは思ってもいませんでした。本当の家族のように接してくれたのですごくうれしかったです。

お別れの日、家を最後にし、車で移動するときも涙が出てきました。バスに乗る前にホストファミリーみんなとハグをしてお別れをしました。私は、ホストファミリーと出会うことができてすごくよかったです。これからは、ホストファミリーとの関わりを大切にして、ホームステイでいろんな体験ができたことをたくさんの人に伝えていきたいです。

牧場に行きました。生まれて間もない子牛がたくさんいました。いつもだと飲めないしぼりたての牛乳も飲みました。少しにおいがきつかったけど、色んな牛が見れたので良かったです。

この日はオリジナルのろうそくを１から作りました。何度も同じ作業を繰り返して作りました。日本ではろうそくをはじめから作ったことがないので、良い思い出になりました。

家族みんなで撮った写真。
とても明るく、にぎやかな家族だった！

（本人 前列左側）

山崎　真花
Manaka　Yamasaki

（ホストファミリー　van Dijk 家）

私は周南市友好親善訪問団に参加して、日本とオランダの違いについて学び、様々な体験をさせて頂きたくさんの思い出を作る事ができました。

この訪問団に参加した理由の１つに消極的な自分を変えたい、自分の力でどれだけいろいろな事ができるか試してみたいという強い思いがありました。

私は日本を出るまでずっと緊張していました。

英語がほとんど話せないし、初めての海外に不安でいっぱいでした。しかし、オランダに着いた時には自分が見たことのない世界が広がっていて興奮しました。

２日目は、自分が一番見たかった、アムステルダム国立博物館に行きました。たくさんの展示物があって、見るものすべてが新鮮でした。

午後には、ついにホストファミリーの方々と対面です。ホストファミリーの方々とは、会う前から少しメールでやりとりをしていたので直接会うのをとても楽しみにしていました。

優しく暖かいホストファミリーで、家族構成はお父さん、お母さん、姉妹２人と犬と猫です。

アムステルダム国立博物館の有名な展示物の前で撮った写真

にぎやかでとても明るい家族ですぐに仲良く打ち解けることができ、私を家族の一員として扱かってくれました。

ホストファミリーはいろいろなところに連れて行ってくれて、買い物や観光、オランダについて様々なことを話してくれました。連れて行っていただいた所はどこも楽しかったけど、１番楽しかった所は、潮がひいた所を歩ける海です。２時間かけて行って、靴の色が何色かわからなくなるくらい泥だらけになって、遊びたくさん笑いました。

みんなが集合してオランダの伝統ゲームをしたり、バーベキューをして楽しい時間を過ごしたりもしました。ホストファミリーの方々にはとてもよくしていただき感謝の気持ちでいっぱいです。

日本とオランダの違いについてもしっかり学びました。オランダは背の高い人が多いからか、家の中の鏡の位置が高く、私の顔はまったく見えませんでした。敷地が広く、レンガ造りの家が多く見られました。また、ガーデニングが盛んで緑と花の美しい街並みでした。

風車に虹がきれいにかかったときの写真

今回のオランダの訪問で、英語が話せなくても、ジェスチャーや単語を組み合わせれば何とか伝わって会話ができるということがわかりました。オランダの人たちはとても優しくて親切で心暖かい人が多いこともわかりました。これから、しっかり勉強してもう一度、オランダに行けるように頑張りたいです。

この訪問団で得た経験をこれからの生活に生かし、さらに積極的にいろいろなことにチャレンジしていきたいです。

最後に、この訪問団で出会うことができた仲間たちと協力して様々な企画を立てたり、意見を出し合ったり、一緒にダンスをしたりしあって過ごした日々は、私の宝ものとなりました。

ろうそく作りをしたときの写真。
自分好みのろうろくができた！！

潮がひいたところを歩いたときの写真。とても、楽しかった！！

この写真はドライブの途中に寄りました。青い空と草原がどこまでも広がっていて幻想的な景色でした。ホストマザーが家族写真を撮ろうと言って撮影した1枚です。

吉野　綾花
Yoshino　Ayaka

（ホストファミリー　ten Have 家）

日本から約９０００キロ離れた国オランダは、この訪問団に参加した私にとって大切な場所になりました。オランダで過ごした時間、目で見て肌で感じた風景を振り返ると充実した１０日間でした。

私は日本を出発する前、ホームステイをすることに不安を持っていました。初めて行く地に一人きりでホストファミリーの家に入り、共に生活をする。文化も言語も違う中で一緒に過ごし楽しむことが出来るのか。

しかし、そんな私の思いは必要ありませんでした。デルフザイル市役所で初めて会った日、バスから降りてきた私に優しく手を振り迎い入れてくれました。ホストファミリーには１９歳と１６歳と１４歳の３人兄弟がおり、一人っ子の私にとって兄弟が出来た気持ちになりました。ホストマザーはいつも私のことを娘のように可愛がってくれました。本当の親子のように一緒に買い物に行き、兄弟のように犬の散歩やゲームを一緒にしました。

私はこのホストファミリーの人達と出会えて本当に良かったです。

Maisdoolhof Meerstadという場所です。巨大迷路になっており、迷路はトウモロコシで作られています。道は泥で出来ていたので裸足で遊びました。地図を見ながらゴールを探すも意外と難しく、1時間程でゴールすることが出来ました。

３日目のスポーツアドベンチャー活動は、オランダの伝統的なゲームを行いました。アーチェリーといった馴染みのあるスポーツから、生卵をスプーンに乗せて運んだり、水の入った容器の中にリンゴを入れ顔面をつけて食べたりするなど、日本にはないユニークなゲームもありとても盛り上がりました。中でも、木の板とかごを使って橋を作り、速さを競うゲーム

は難しかったです。ルールを聞くにもオランダ語で理解できていないまま始まりましたが、同じチームの人に英語で質問をし、ジェスチャーをすることでゲームを楽しむことが出来、たくさんの人とコミュニケーションが取れました。

また、活動の途中に地元のラジオ局の人にインタビューを受ける貴重な経験をしました。生放送だったので英語の単語や文法を間違え緊張して詰まらせたら、などと心配しましたがアナウンサーの方とオランダやホームステイについて話すことが出来ました。インタビューを終えた後、アナウンサーの方が「Perfection!」と褒めてくれたのが嬉しかったです。実際に自分で話した言葉が相手に通じ反応してくれるのを見ると、自分自身の英語に自信がもて、積極的に話しかけられるようになりました。

この訪問を通じてたくさんの出会いと発見がありました。デルフザイル市役所の方々や現地で出会った人達は、決してオランダに行かなければ出会う事もなかったと思います。私を受け入れてくれたホストファミリーの人達は、大切な存在であり私にとって第２の家族です。そして、オランダは私にとって第２のふるさとです。訪問団員として過ごした１０日間は私を一回りも二回りも成長させ、大切なものをくれました。これからこの貴重な経験をもとに、今まで以上に頑張っていきたいと思います。

ありがとうございました。

ディック・ブルーナーハウスの中の写真です。天井にミッフィーの絵本が吊り下がっており、壁が鏡なのでどこまでも続いている様子が綺麗でした。

オランダではチーズが有名でお店にはたくさんの種類のチーズがありました。オランダのチーズは日本のチーズより香りや味が濃厚でサイズも大きかったです。お店では店員さんがチーズの試食をさせてくれ、1番美味しかったチーズを買い毎朝パンと一緒に食べました。

訪問団員とそのホストファミリー全員でお昼を食べに行った時です。食べたのはオランダ伝統的なパンケーキです。三角形のトレイにバターを塗って生地を入れ、お好みでハムやチーズをトッピングして焼きました。初めて食べる味で美味しかったです。

乗馬をしている時の写真です。私のホストファミリーは乗馬クラブを経営しており、私自身乗馬を習っているのでたくさんの馬に乗って走りました。普段とは違った環境で走ることが新鮮で、馬達がとても可愛いかったです。

私のホストファミリーと坂田さんのホストファミリーとピクニックに行きました。そこで家族写真を撮りました。この時、本当の家族のように接してくれているのだと改めて感じる事ができ、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

飯山　千滉　Chihiro　Iiyama

（ホストファミリー　Wolsijk 家）

私が、今回の派遣事業を通して学んだことは２つあります。

１つ目は、相手に自分の意思を伝えようとする姿勢を持つことが大切であるということです。ホームステイを行う前までは「自分の英語力でも何とか伝えることが出来るだろう」と安易に考えていました。

しかし、初日のホームステイを終えてみると、ホストファミリーに自分の思いを英語で伝えることができず、自分とは異なる言語を使用する相手に思いを伝えることの難しさを痛感しました。

難しさを痛感したものの、自分の思いをホストファミリーに伝えることをあきらめずに、単語をつなげたり、スマートフォンの翻訳アプリを使用したりして、自分の思いを必死に伝えようとしました。ホストファミリーとの会話の中で、分からない単語や聞き取れない単語も多々あり、「もう１回言ってください」や「ゆっくりお願いします」と聞き返すことが多く、相手に申し訳ないという思いを都度感じました。

しかし、相手は「大丈夫です。」と優しく答えてくれて、私の伝えたいことを必死に理解しようとしてくれました。

このように、どのようにしたら伝わるか試行錯誤して、自分なりに伝えようと努力をすることで、相手にも気持ちが伝わり、関係をより深めることが出来ました。

私は、異なる言語を話す人と良好な人間関係を築くためには、完璧な英語で、スマートに自分の意思を伝えることが重要なのではなく、どのようにしたら伝わるのか、考えて積極的に発言することが大切であると学びました。言語が異なることで、コミュニケーションをとることに消極的になるのではなく、積極的に自分の思いを伝えていき、多くの人と良好なコミュニケーションを形成していきたいと感じました。

２つ目は、外国で暮らす際には、その国の文化や歴史を知り、受け入れることが良好な人間関係の形成につながることを学びました。

ホームステイ半ばのある日、ホストマザーから「ホームシックになっていないか？」と聞かれ、私は少し日本が恋しくなっていましたが、心配させてはいけないと思い、「全然さみしくない。大丈夫。」

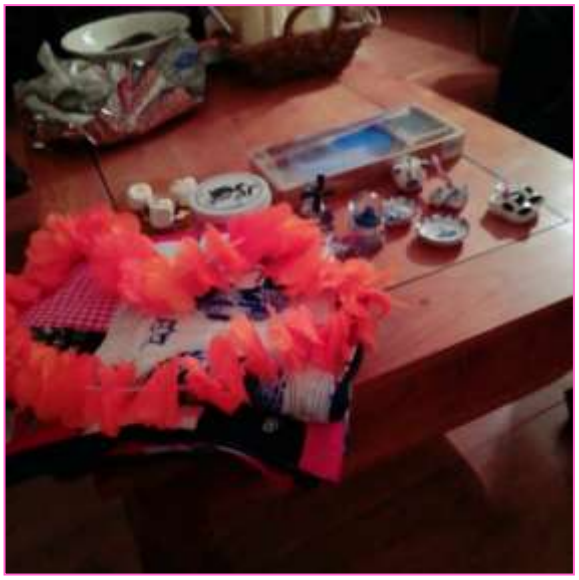
と答えました。するとホストマザーは「そんな事を言ってはダメ。お母さんが悲しむよ。」と言いました。

私は日本人の感覚で相手に気を遣って言ったつもりでしたが、外国では本心と受け止められるのだと改めて文化の違いを感じました。

今回のホームステイを通し、異なった暮らしを体験することでお互いの生活や文化を知ることが出来ました。様々な違いを受け入れると同時に、相手に自分の意思を伝えることの大切さも考えることが出来ました。今回、得ることが出来た知識を、将来の夢を叶えるための今後の学習に生かしていきたいです。

ホストファミリーのSanneと一緒に愛犬のWollieの散歩に行きました。家の近くには、散歩やジョギングができる道がありました。Wollieは走ったり歩いたり止まったりの繰り返しで中々前には進まなかったけど「Wollie」と呼んだら走ってきてくれたので嬉しかったです。

私は、オランダに来てたくさんの友達ができました。皆、心が温かく、私達日本人を心から歓迎してくれる優しい方々ばかりでした。最後のお別れ会では、お別れする悲しさと、またオランダに来て、将来は在住したいという気持ちでいっぱいでした。
たくさんの人に出会い、たくさんの友達ができ、一生忘れることが出来ない思い出となりました。



３日目の夕食に、すべてのホストファミリーと一緒にバーベキューをしました。バーベキューが始まる前には、鬼ごっこをしたり英語でお話をしたりして、親睦を深めることが出来たと同時に、デルフザイル市の方々の温かさを感じました。

ホームステイの期間に私の誕生日が近いということもあり、ホストファミリーが少し早い誕生日プレゼントをくれました。サプライズという形で祝ってくれて、驚きが隠せませんでした。プレゼントの中にはホストマザーの手作りのキルトカバーがありました。ずいぶん前から私のために準備してくれていたのだと感激しました。最初は、凄く照れてどんな反応をしたら良いか分からなかったけど、素直に「Thank you」と言うととても喜んでいました。それ以上に私は嬉しかったです。頂いた物は、家に飾っています。

エオリスの風車の前でホストファミリーと

大田　千帆　Chiho　Ota

（ホストファミリー　Janszen 家）

私たちは８月２日から８月１１日までオランダのデルフザイル市にホームステイに行きました。

８月２日は飛行機を２回乗り、アムステルダムに行きました。そして、市内をバスで移動してガイドさんに町のことを説明してもらいました。市内では日本との違いを見ることができました。まず、レインボウの旗は、男の人と男の人、女の人と女の人が結婚してもいい国というサインですと教えてもらい、すごくいい国だなと思いました。そして、市内にあるレストランに行って、オランダの料理を食べて、美味しかったけど、私は日本料理の方が好きでした。でも、デザートはオランダの方が好きでした。そして、レストランからホテルに行ってびっくりしたことが２つありました。

１つ目は、トイレの流す所がトイレの後ろにあるボタンを押して流すということと、２つ目は、お風呂の水の出すのを私の家は回したら水が出るけど、ホテルのは回しても出なかったということです。

そして、８月３日の午後にホストファミリーと面会をしました。私は不安でしたが、コミュニケーションをとろうと頑張ろうと思いましたが、なかなかとることができませんでした。

４日の朝はファミリーと朝ご飯を食べて、午後からアドベンチャー活動で楽しんで、その後、風車の所でバーベキューをしました。とても楽しかったし、ファミリーと写真をとれたことがとても嬉しかったです。

５日と６日はファミリーと一緒に過ごす日でした。５日はフローニンゲン州に私と私のファミリーの兄弟と行きました。私たちは、フローニンゲン州にあるマルティーニ・タワーにあいちゃんとなるみ先輩のファミリーと登りました。上から見える景色がとてもキレイで、ファミリーが店の紹介などをしてくれました。そして、６日にファ

フローニンゲン市の中心にあるマルティーニ塔には、１番上に大きな鐘があって、１番下の階にある紐を引っ張って上の鐘が鳴るようになっています。私たちがちょうど上に上がった時に鐘が鳴り、私のホストファミリーの弟のBjornが鐘の音が大きすぎて耳をふさいでいる時の写真です。

ミリーみんなと第二次世界大戦の展示会に行き、その後に猿動物園に行き、私はそこで周南市徳山動物園にはいない猿がたくさんいて、びっくりしました。それと私は、ファミリーの仲の良さを見ることができました。回っている途中にある売店でファザーがアイスを買ってくれました。

７日は日本のみんなとみんなのファミリーとアウトドア体験をして怖かったけど楽しかったです。そして、池のほとりで昼食を食べました。スープがとてもおいしくて私は２回もおかわりをしました。そして、夜にホストファザーが私に日本のテレビを見せてくれました。その時に、マザーがオレンジジュースとお菓子を用意してくれて、そのお菓子がとてもおいしかったです。

８日に牧場に行きました。そこはとても臭くて鼻が痛くなりました。
そして、夕方にお別れ会で練習したダンス、歌で盛り上がって、ハチマキのプレゼントも喜んでくれました。

９日、とうとうお別れ、私はファミリーにハグをされて泣いてしまい、とてもお別れするのが嫌になりました。でも、またお会いしましょうと言われ、とてもうれしかったです。６日間楽しい思い出ができました。

猿動物園に行った時に、ホストマザーとホストファザーの仲の良さを撮った写真です。日本にはいない猿がたくさんいてとっても楽しくて、ホストファミリーとのコミュニケーションもとれるようになりました。

みんなで行った牧場でとった集合写真です。牧場はとても匂いがきつくて鼻が痛くなったりしたけど、なかなか見れない人工授精を見ることができました。

お別れの時に、ホストマザーが泣いていて、とても心に残っています。だから私は、この写真がとてもお気に入りです。最後にお別れするのは寂しかったけど、みんなと沢山のいい思い出ができ、とてもいい経験ができたので、オランダで学んだことを忘れません。

バーベキューの後にゲームをしました。椅子の上に水が入っている洗面器を２つ置いて、真ん中に立っている人が洗面器の中にお菓子のメントスを１つ入れて、その中に顔をつけて早くメントスを食べたほうが勝ちというゲームです。とても楽しいゲームです。

最終日に、団長さんにいただいた折り紙を使って、私がサナ、そしてホストファミリーのロンやアンスレイア、イルセと６人で折り鶴を作りました。

坂田　楓連
Karen　Sakata

（ホストファミリー　Mulder 家）

私が今回高校３年生になり、訪問団に参加しようと思ったきっかけは自分の英語力の向上を目指していたところもありましたが、「いろんな人と触れ合いたい」と思うところも理由の１つでした。

私は日頃少し人見知りをすることがありますが、高校３年生の今、海外の学生と触れ合えることは最後の機会でもあり、二度とない事だと感じていたからです。そしてそのようなまたとない機会を掴み取ることができた私は「日々新しい何かを得て自分のものにする」と壮行会の時に自分の抱負として掲げました。

海外経験は、私にはカナダに親戚がいるという事もあって遠く感じることはなく、オランダについて現地で食文化や習慣に実際触れることができるという点にとても胸が高鳴っていました。また、緊張感漂う飛行機内では団員のメンバーと胸を膨らませながら初めてのホームステイを迎えました。

私は、初めてのホームステイ先はマルダー家で家族４人の家族構成と知り、自分の家族のようだと感じていました。実際、私達は様々な手段を用いて連絡を取り合っており、私が持っているそばアレルギーについて色々調べどのようにしたら症状が発症するのかなど聞いてくださる事もありとても親切にしてくださいました。

この時、私たちは初めて家族みんなとオランダの歴史を学び、そして晴れた空の下でピクニックをしました。ペットのTibbyも連れ、ホストファミリー全員との初めての思い出はとても楽しく、そしてとても深みのある濃い日を過ごすことができました。

ホームステイは６日間であっという間のものでした。

初日は午後から私達とホストファミリーの対面をし、晩御飯では、最初の夜を全てのファミリーと過ごす事で沢山の人と触れ合うことができました。

また、周南市にあるゆめ風車のモデルとなった風車の中へ入り、イルセと自分の名前を書く冊子に名前を書いたりするなど、とても大切な日を過ごせました。

平日は、朝から晩まで皆とパンケーキを作ったり、牧場に行って新鮮な牛乳を味わったり、アドベンチャーゲームをしたり、スポーツアドベンチャーなど身近に体験できないようなことを沢山して、楽しい事も嬉しい事も沢山一緒に味わう事ができました。

土曜日、日曜日には、私のファミリーと他の団員のファミリーの２家族でオランダの歴史やアンネフランクの歴史を学ぶために歴史資料館を訪れ、一見難しいように思えることもありましたが、皆で１つずつゆっくり私達に説明してくれる事もあり、とても分かりやすかったです。他にも、家族皆で集合写真を撮影したり、家族皆で様々な体験したり、体を動かしたり学んだりするなどをし、ホストファミリーと過ごす事ができました。

何処に行くとか、何を食べるとかではなく、私はホストファミリーたちと過ごす１日１日の時間が長いようで短いものだったので、とても寂しい気持ちもありましたが、とても楽しく濃いものでした。

英語ではなく、オランダ語が共通言語でとても焦りましたが、自分なりに英語で一生懸命伝えようとする気持ちはしっかりと相手に伝わり、文化が違っても言語が違ってもお互いに分かり合うことの嬉しさや大切さに気付くことができました。

私がこのホームステイを６日間すごすことで私は抱負を達成する事ができたように感じます。

また、コミュニケーションや語学力を向上させる為に様々な自分の気持ちの伝え方をしたことで、私は語学力の有無も必要かと思う部分もありましたが、自分と相手の母国が違うことがあったとしても、お互いに気持ちを理解しようとする事がいかに大切であるかということを学ぶ事ができました。

これらの学んできたことも含め、これから私は海外に積極的に触れ合い自分の視野を広げていきたいと思います。

歴史を学ぶ時、とても難しいと感じており、学びたいという気持ちと同時に不安に包まれることもありましたが、イルセとサナ、サナのお父さんやお姉さんに少しずつゆっくりと説明してもらうことによって、とてもわかりやすく、オランダの歴史を学ぶことができました。

思い出作りの１つとしてロウソク屋さんで私たちのオリジナルのロウソクをイルセと共に作りました、とてもかわいく２人で完成したので、私たちは夜家に帰ってすぐに火をともしてホストマザーと３人で穏やかな夜を過ごしました。

全てのホストファミリーと城塞に行った時の写真です。
私はイルセとこの木靴を履いてみたら？と言われ、気恥ずかしかった私は強制的にイルセを連れて２人で木靴を履きました。
木靴はオランダ語ではklompen（クロンペン）と言うのだと、この時サナに教わりました。

すぐに1週間は過ぎてしまいました。お別れはしたくなかったけど、ホストファミリーが「Moi」「またね」と言ってくれました。また絶対にオランダに戻ろうと思いました。

鈴川　希里葉
Kiriha　Suzukawa

（ホストファミリー　van der Waal 家）

ホストファミリーとのお別れの時、泣いている私にホストブラザーは、「Moi!」と声をかけてくれました。

私にその言葉を教えてくれたのは、ホームステイ２日目のことでした。朝起きて、近くに１人で住んでいるホストシスターの家に一緒に行った時でした。彼が通りすがりの人に、「Moi!」と声をかけていたので私は「Moi ってどういう意味。」と聞くと、彼は「Hey とか Bye というときにも使うんだ。」と教えてくれました。教えてくれてからは、私と話すときにも、「Moi!」と声をかけてくれました。その言葉が私にはとても嬉しかったです。私にとって彼は、本当のお兄ちゃんのような存在になりました。

左からホストファザーのアドゥリー、マザーのイダと１８歳のブラザーのケルビンです。最初は年上だし性別も違うからあまり仲良くなれないのではと不安でしたが、彼はとても面白く優しくて、すぐ話せるようになりました。

なんといっても、１番しあわせだったのは、夕飯の後のゆっくりした時間です。ホストファミリーとリビングで紅茶など飲みながら、いろいろなことを話しました。その日の出来事が主で、他に私の住んでいる周南市のことや家族のこと。

中庭にあるホストブラザーが作ったテラスで音楽を聴いたり、私が日本から持ってきたＵＮＯで遊んだりすることもありました。土日で行ったキャンプでも、夜は暖かいテントの中で家族と一緒におしゃべりをしたりしました。外はコートを着ないと寒いのに、中はほんとに暖かくて私自身も温かい気持ちになりました。

ゆっくりする時間も大好きですが、日中の沢山の楽しい経験も忘れられません。１番楽しかったことは、ブラザーとモーターボートに乗ったことです。彼がわざわざ波の高い所へ行くのでズボンはびしょびしょ！波がない所へ入ると、私に運転させてくれました。初めてだったけれど何とかできるようになりました。しかしUターンだけはできなかったので、次行った時の目標にしたいと思います。

夜は家族とゆっくり過ごします。
この日はホストブラザーが作ったテラスで過ごしました。

こうして私たちの１０日間は本当にあっという間に過ぎていきました。気づくとホームステイに行く前に感じていた心配は嘘のように消え去っていました。でも胸は一杯一杯でした。初めて出会った人の家で過ごし、一緒にご飯を食べたり、自転車に乗ったり、散歩したり。何もかもが楽しくてたいせつだから。

朝、私とホストブラザーが近くに住んでいるホストシスターの家に行く時に撮った写真です。普通の通路のそばの草に見えますが、実はこれ、少し奥は雑草の高さが高くなっていて、ネズミなどの動物がすめるようになっていると聞きました。共存がちゃんとできていて、すごいなと思いました。

お別れのバスに乗り込むと窓の外からファミリーは手を振ってくれていました。だから、私も手を振って、「Moi!」また会おうね！

この経験は私を大きく変えるだろうと思います。なぜなら、私はもう一度オランダに戻ると決めたからです。そして、この素晴らしい経験をさせて下さった周南市役所の方々、オランダと日本の私の家族に感謝します。本当にありがとうございました。

土日はホストシスターと合流してキャンプに行きました。すぐ近くに湖があり、風がすごく気持ちよかったです。家族で周辺を歩いた時にたくさん話をしました。中でも嬉しかったのは、ホストマザーが「あなたの髪の色すてきね」と言ってくれたことです。私はブロンドの髪の方が良いと思っていましたが、その言葉を聞いて、自分に少し自信が持てました。

ホストファミリーの家の馬に乗りました。
最初は少し怖かった！

東影　成美
Narumi　Higashikage

（ホストファミリー　van Dijk 家）

私は周南市友好親善訪問団に参加し、日本とオランダの違いを様々な活動の中で感じることができました。

私はオランダへ出発する前は少し緊張していました。しかし、ホストファミリーが温かく迎え入れてくれたおかげですぐに緊張が解けました。最初は言語も違うのでコミュニケーションをとるのが難しかったけど、身振り手振りで伝えようとしたり、ホストファミリーも翻訳アプリを使って私の言いたいことを理解してくれようとしたり、いろいろ質問してくれたりしたのでたくさん話すことができました。

オランダでは日本ではできないことを多く体験することができました。

私のホストファミリーは馬を飼っていて、その馬に乗せてもらった時はとても緊張しました。最初は、触るのも怖かったけど、乗るときはホストファミリーがついてくれていたので慣れたら平気になりました。周南市では馬を飼っている家は見たことがないので、一般の家で普通に馬がいることに少しびっくりしました。

ホームステイ３日目にレーシングカーを見に行った時は、日本とのつながりを発見することができました。ホストファザーがレースに出ている車の説明をしてくれて、ヤマハやスズキなど日本で作られた車もあることを教えて

くれました。また、息子のエリックと展示されている車を見に行った時は、水素自動車の話をしてくれて、エリックは普通の車に比べて音が静かだから水素自動車のほうが好きだといっていて、日本にも水素自動車があったことを思い出しました。日本とオランダのつながりはいろんなところにあることがわかりました。

ホストファミリーと過ごしていく中で、もっと自分の国についてよく知らなければならないなと思いました。

ホストファミリーが日本語を教えてほしいと言ったので、ひらがなとカタカナを書いてみせました。するとホストファザーが、この２つの違いは何？と聞いてきて、私は答えることができませんでした。この時私は、自分の国の言葉なのに知らないことがあったことにびっくりしました。そして、ホストファミリーに自分の国の言葉について教えてあげたいのに、それができなくてすごく申し訳ない気持ちになりました。だから、他の国の事について知るのも大切だと思うけど、まずは自分の国についてよく理解することが大切だと思いました。

ちょっとしたことでも日本とオランダの違いを感じることができたので、そのことを家族や友達にも教えてあげたいと思いました。この貴重な体験を忘れないでこれからに生かしていきたいと思います。

この写真はボートハウスです。
運河に浮かぶ家で人が生活しています。

ホストファミリーとレーシングカーを見に行きました。いろいろなパフォーマンスなどもあってすごかったです。

ドム塔の中の一番大きな鐘。年に２回だけ塔の中のすべての鐘が鳴らされます。

ホストファザーのバイクの後ろに乗せてもらい、ドイツが見えるところまで連れて行ってもらいました。

スワルト邸の御庭でティータイム

河津　浩之
Hiroyuki　Kawatsu

（ホストファミリー　Oosterhuis 家）

「大丈夫だろうか？」

正直に今だから話せますが、団員の中で、出国前に一番緊張し不安を抱えていたのは、間違いなく団長の私だったと思います。理由の一つに、中学生と高校生で構成された団員達が私の二男と同世代であるため、親の立場から、各団員にはオランダで素晴らしい体験をしていただくとともに、安心・安全に全員を無事に帰国させなければならないという強い使命感を抱いておりました。さらに、デルフザイル市では、私自身も団員と同様にホームステイをさせていただくにあたり、私の拙い英会話能力で、ホストファミリーや市役所及び姉妹都市財団の方々とコミュニケーションを取ることができるだろうかと心配していました。

ステグマイヤー夫妻と旧貴族邸に

「団員の体験」

ホストファミリーとの面会から一夜明けた翌日の活動では、皆様と一緒にスポーツを行い、また、夕食はバーベキューを風車エオリスの傍で楽しくいただいたことにより、交流を一層深めることができました。各団員の弾ける笑顔やホストファミリーと柔軟に打ち解けている様子を目の当たりにして、私の心配は杞憂に終わったと感じ、私自身も皆様に積極的に話しかけ、真摯に聞く気持ちで接することを心掛けました。

１０日間を通して、団員に大きな怪我や病気、また事故もなく、無事に徳山駅に到着し、全員をお迎えにいらしたご家族にお引渡しできた時は、本当にホッとしました。

国際交流に関して志の高かった１５名の団員達は、今回の友好親善訪問団に参加し、素晴らしいホストファミリーと過ごす時間を得たことで、更なる意識を高めたことと思います。「帰りたくない」「また、絶対に来る」と言っていた団員達が、この気持ちを忘れずに、将来、経験を活かして、様々なグローバルな分野で活躍してくれるものと私は信じています。

アーントン宅での運命の再会

「運命の再会！」

私のホストファミリーは、７０歳の単身者であるペーター・ウーステルハウス氏で、とても心暖かく、紳士的で、想像していたとおりの方でした。滞在中は、朝食を彼に準備していただき、向かい合って食事した後に片付けを私が行い、昼食や夕食は、訪問団プログラムや財団関係者等の方達と共に食事するというサイクルで、皆様に温かく迎え入れていただき、とても楽しく過ごすことができました。

お別れ会の朝、食後にツーショット！

土曜日は姉妹都市財団のヨハネス・スワルト会長とその御家族、また、日曜日には財団事務局のリチャード・ステグマイヤー氏とその御家族と一緒に過ごし、「泥炭」の博物館や、旧貴族の邸宅等を案内していただき、また、ご自宅にも伺わせていただきました。

月曜日の夕食は、ウーステルハウス氏の友人である８２歳のアーントン氏の御宅を訪ね、奥様手作りのオランダの家庭料理を美味しくいただきました。食事の前に、彼ら二人が平成７年に、デルフザイル市音楽隊の一員として旧新南陽市に来日されていたと伺い、当時の写真や領収書等が綺麗に整理されたアルバムを見せていただきました。同市役所出身の私が知る市職員の方々が写っている写真を見て、共通の話題として会話が弾んでいた時、その中の１枚の写真に当時の私の上司を見つけ、右隅に写っている人影が、音楽隊のおもてなしに参加させてもらっていた私であることに気付きました。私は思わずその写真を指差して「this is me!」と叫び、目の前にいるお二人と２２年前に日本で会っていたことが判明し、この日に偶然にも運命的な再会をしたことに、みんなで驚き、とても不思議な縁を感じたのでした。

「Hartelijk dank」

このたびのデルフザイル市民の皆様による心温まる素晴らしいおもてなしや充実したプログラムを体験させていただき、両市における姉妹都市締結２７年の歴史と交流の深さを、身を持って感じることができました。

山がないため、３６０度見渡せる絵画のような景色

来年の本市での受け入れは、夏の気温がオランダよりも１０度以上高い日本の猛暑での活動となりますが、来日される訪問団の方々に、安心・安全に日本の文化・歴史を体験していただき、周南市民の皆様と国際交流が図れるよう受入体制を整えていきたいと思います。

１５名の団員を含め、多くの方々との出会いや貴重な体験は、これからの私の人生において大きな財産になると確信するとともに、友好親善訪問団派遣に携われた全ての関係者の皆様方に対し、心より感謝いたします。本当に、ありがとうございました。

Fantastic Memories★

Delfzijl

Molenbrug

Amsterdam

Utrecht

デルフザイル市訪問までの事前説明会や帰国後の報告会の様子を紹介します！！

事前説明会（6月24日、7月8日、22日）

事前説明会では、お別れ会での出し物やグループ学習のテーマを決めました。
出し物は、嵐のGUTS！とAKB48の恋するフォーチュンクッキーを歌って踊ることになり、各自、家で練習しました。
グループ学習では3グループに分かれ、それぞれ「食文化」「生活様式」「建築物」について日本とオランダの違いを調べることになり、事前に日本のことを調べたり、オランダのことについて予想したりしました。
また、ホームステイの心構えや語学研修なども行いました。

壮行会・最終説明会（7月29日）

壮行会では、市長や団員の在籍する学校の先生方、保護者のみなさんの前で、１人ずつ決意発表をしました。
その後の最終説明会では、保護者のみなさんに対し、お別れ会の出し物を披露しました。
照れている子も多くいましたが、前回の練習の時より格段に上手くなっており、家での練習の成果がでていました。

事後研修会（8月21日）

帰国後は、グループ学習のテーマについて、現地で調べたことをまとめました。
ホストファミリーに質問したり、写真を撮ってくるなどしてしっかり調査してきたようで、限られた時間の中でまとめを作成し、発表の練習をすることができました。

帰国報告会（9月3日）

帰国報告会では、まずグループごとに写真を使いながらグループ学習の成果を発表しました。その後、一人ずつ現地での活動報告を行いました。
壮行会の時と比べて、堂々と自信に満ちたようすで、皆さん素晴らしい発表をしていました。

デルフザイル市街地のホストファミリー配置図
（団員８名、団長）

デルフザイル市郊外のホストファミリー配置図（団員７名）

発　行　　周南市　地域振興部　観光交流課

〒745-0045
山口県周南市徳山港町1-1
TEL(0834)22-8372
FAX(0834)22-8357

しゅう　ニャン　し
周南市